

「家庭の日」作文コンクール

～ 毎月第3日曜日は「家庭の日」～

問い合わせ先 生涯学習課（文化センター内）☎ 0857-20-3363

青少年育成鳥取市民会議では、次代を担う青少年の健全な育成を図るため、昭和57年から毎年、小中学生を対象に、家庭に関する作文コンクールを行っています。
平成22年度は、371点の応募がありました（入賞者は「とっとり市報」3月号に掲載）。その中から、最優秀賞に選ばれた作文を紹介します。

家族みんなで闘う



西中学校二年（現在）
やまもと しょうた
山本 将太 さん

ぼくは中学で弓道部に入り、毎日ががんばっている。七月二十四日、二十五日には県総体が開かれ、まだ試合には出られないが、役員として参加した。前日の二十三日から三日間は早朝練習もあり、二十五日の夜はさすがにとても疲れて、本当にぐっすりよく眠っていた。

二十六日の朝、目が覚めると、母がいつもとは違う少し暗い表情で話しかけてきた。「お父さんが夜中に具合が悪くなって、救急車で運ばれて

入院したんだよ。」

「えっ？」

ぼくはとつても驚いた。母は、疲れているぼくを真夜中には起こさず、朝まで寝かせておいてくれたらしい。

父は四年前に病気になり、その後も二、三回ほど入院したが、特に日常生活には影響がないほど回復し、菓を飲むだけで今までと変わらず普通に暮らしていた。でも、今年の六月頃から体調を崩し始めていたので、家族で心配していた。病院でしっかり診てもらうように、検査を受ける当日だった。母の話によると、まだはつきりとは分らないが、今までの病気とは違うとても大変な病気らしい。さすがに、朝から心に雨雲のような重みがずしんときたが、ぼくは午前中は部活をして、午後から病院へお見舞い

に行った。

いつもは、ぼくの前では強くて厳しいイメージの父が、ベットの上でとてもしんどそうにぐったりしていた。これからいろいろな検査で体の中を調べてから、手術になるみたいだ。

今まで、庭の世話は全部父がしてくれていたが、父が入院したので、母と一緒に汗だくになって水やりをがんばらないといけない。父が春から育てた野菜もできるだけ枯れないように、それから父が飼っているグッピーやシマ鯛も、一生懸命お世話をしないと

けない。花も木も野菜も魚たちも、それぞれみんな大切な命がある。何だか家を守っている父の大きさが改めて分かった気がする。

母も仕事を休んで付きそったり、半日だけ出勤したりして本当に大変そうだな。家庭科の宿題が料理だったので、母に夕食を作ってあげるこ

家庭は、子どもの憩いと安らぎを与える場であり、人生に大切な「ものの見方」「考え方」や「行動のしかた」（基本的な生活習慣）を身につけさせる場です。

家族の団らんや家族そろっての行事などで体験を通して子どもたちを心豊かにたくましく育てましょう。

善悪の判断や社会のルール、社会生活のマナーやエチケットは、幼児期から家庭でしっかり教え（しつけ）ましょう。

子どものしつけは、親の義務です。

家庭は子どもの人間形成の基盤です

とにした。わが家で採れたトマト、ピーマン、キュウリなどを使って、スパゲッティとサラダとスープを作った。思ったよりも結構上手くできたのでうれしかった。何より、母が笑顔を取り戻して食べてくれたのが一番うれしかった。今度は父にも作って食べさせてあげたい。
今、父は大変な病気と闘っている。でも、病気は、その人だけが闘うのではなく、家族みんなで闘うものだと感じた。これから先も、家族みんなを力を合わせて、病気として闘って行く。

心をつなぐコミュニケーションを！

～子どもに携帯電話（ケータイ）を持たせる前に～

問い合わせ先 市役所本庁舎人権推進課 ☎ 0857-20-3143

今、インターネット機能がついた携帯電話（以下、「ケータイ」を
用います）の世界で、何が起きようとしているのでしょうか？

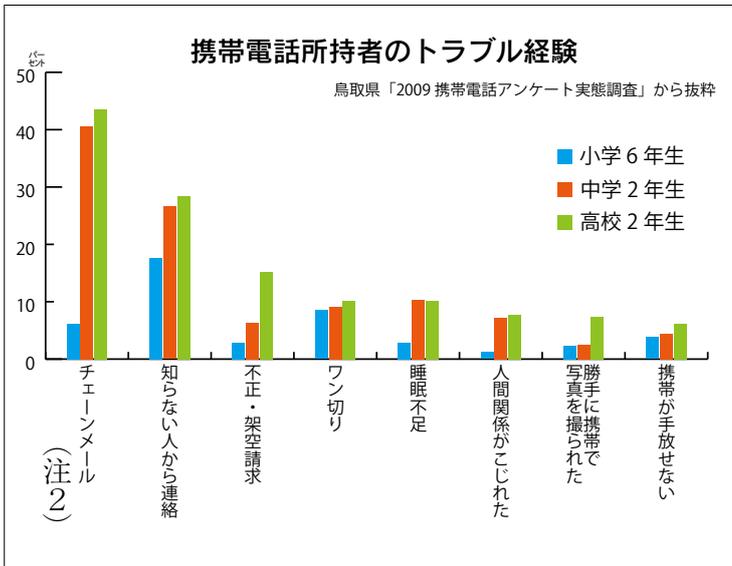
調べ物をしたり、資料整理、ノート（書き込み）、連絡など、た
くさんの人と一度に通信ができるとても手軽で便利なもの。私たち
の身近な存在となった通信機器ですが、一方で、さまざまな人権侵
害などの問題が多く発生しています。

特に、春は子どもたちのケータイの所持率が高くなる時期です。
今回は、ケータイを通じた、インターネットを取り巻く現状を把
握し、人権侵害をなくすためにどうすべきかを考えます。

どんなことが起きてい るの？

▽インターネット上で知り
合った見知らぬ人と会って、
トラブルに巻き込まれる（犯
罪、事件）▽薬物購入の仕方
を丁寧に説明したサイトや犯
罪、わいせつ画像などの有害
情報の閲覧が容易にできる▽
懸賞やプロフ（注1）での個人
人情報を書き込み、悪用され
る（一度ネット上に出た文字
や映像は回収が困難）▽届い
たメールにすぐ返信しないと
友達関係が壊れると思っ
てしまったり、常に携帯電話を
持っていないと不安になる（寝
る時にも手放せない、ケータイ
依存症）▽匿名性が高く、

掲示板や裏サイトでの誹謗・
中傷などが氾濫し、いじめの



道具となっていて日常的に
単語のように短い言葉での会
話が習慣化し、人と直接相対
してのコミュニケーションが
苦手になっている。
このように、使い方によっ
ては、ケータイは子どもたち
の生活に深く入り込み、頻繁
に受信することや、あたかも
現実であるかのような仮想
（バーチャル）世界への逃避な
ど、子どもたちの学習や生活
のリズムを乱している実態が
あります。

私たちに 何が できる？

各携帯会社
には、有害サイ
トに入りやすく
するためのフィ
ルタリングサー
ビスがあります
が、十分ではあ
りません。あふ
れる情報に流さ
れたり、身に覚
えのない情報に
振り回されない
ように、何が必
要な

なことなのかをしっかりと話
しあいましょう。子どもたち
の安全・安心を確保する事は
私たち大人の責任です。

コミュニケーション能力が
低下しているといわれる現在、
情報機器に頼ってしまうので
はなく、日頃から、しっかりと
顔を見ながら、それぞれが何
を思い、どう感じているのか
などの意志の疎通ができるよ
うな会話を心がけましょう。

人権侵害を無くすために
は、私たち大人が子どもたち
の環境、状況を把握し、孤立
することのないような地域社
会をつくっていく必要があります。
困ったときに相談され
る大人になれるよう、日頃か
ら心をつなぐ人間関係を築い
ていきましょう。

(注1) 主に携帯電話で利用されて
いる、自分のプロフィールのページ
を作成できるサービス、または、そ
のようなサービスを提供している
Webサイトのことです。

(注2) 「不幸の手紙」の電子メール
版で、受け取った人に、誰かに転送
させることを目的とした迷惑メール
のことです。